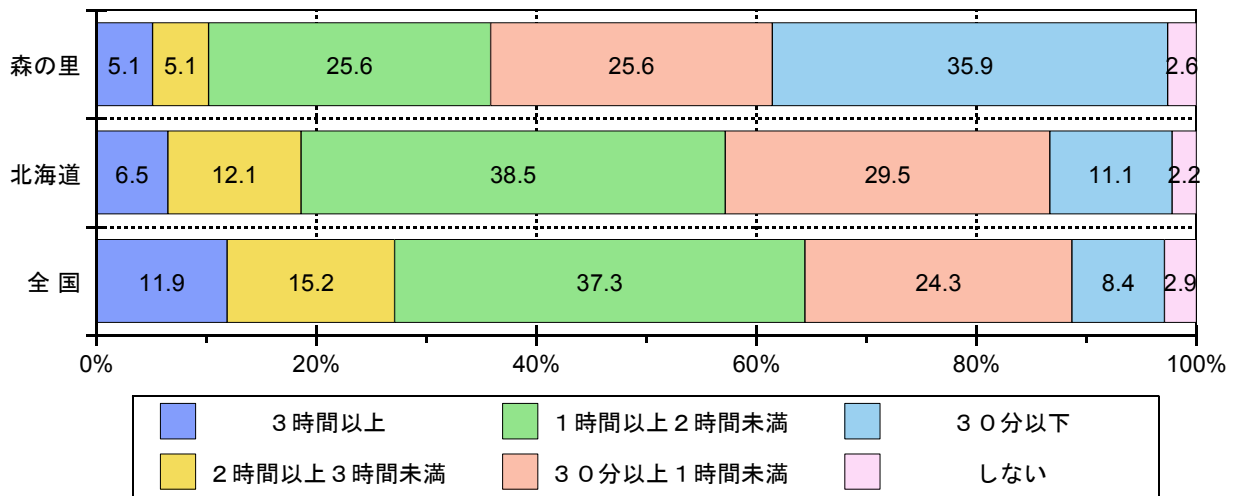


課題

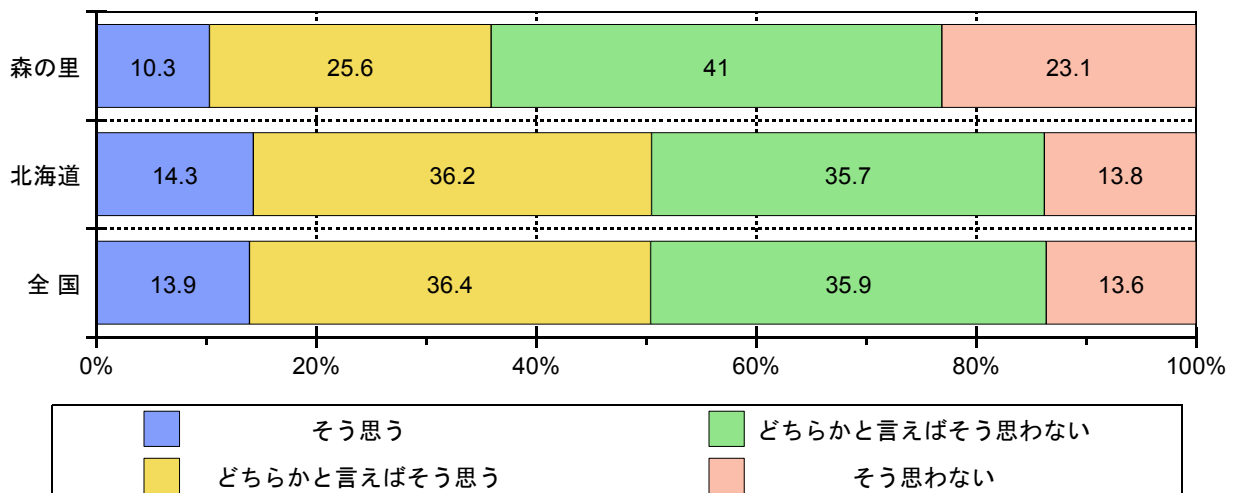
学校の授業時間以外に普段、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか



家庭学習の時間が「30分以上2時間未満の子ども」「全くしない子ども」の割合は、全道・全国平均並みといえる。一方で、「2時間以上」「3時間以上」と学習時間が多くなるにつれて割合が少なくなる傾向にあり、特に「2時間以上3時間未満の子ども」は、北海道の半分、全国の3分の1となっている。この結果から、家庭で学習する習慣づくりのきっかけとして宿題を活用や、家庭学習の手引きの有効活用などで学校から家庭に働きかける手立てを継続していく必要がある。あわせて、家庭への働きかけやお願いも積極的に行っていく必要がある。

課題

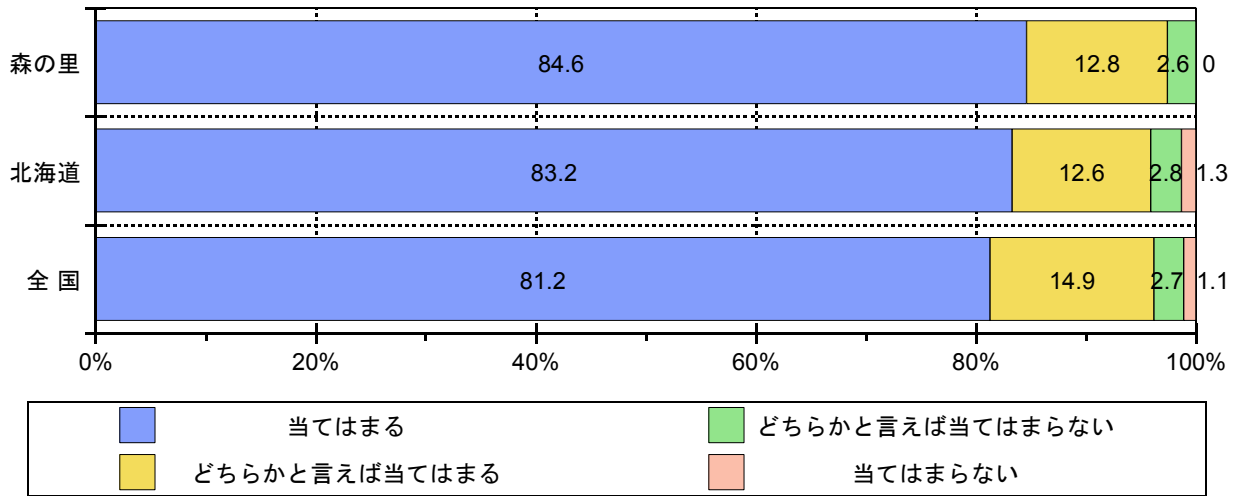
話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか。



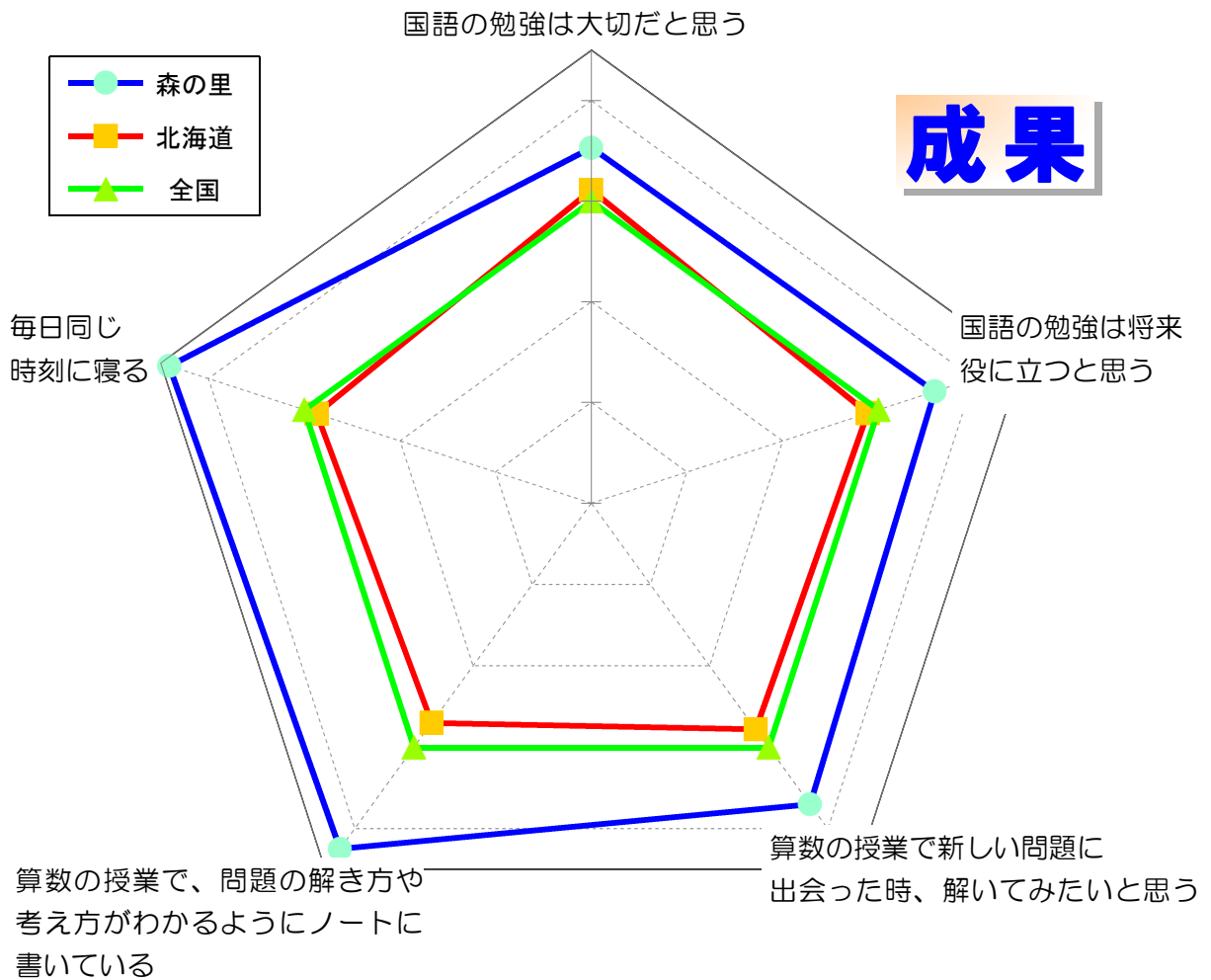
話し合い活動において、少数意見が反映されなかったり、異なる意見を伝えられなかったりする傾向がうかがえる。特別活動や学習時間における話し合い活動において、人と異なる意見をもつ大切さや自信をもって伝えられる環境づくりが求められている。安易に多数決で決めることなく、多くの意見を出し合い、論議しながら、結論と導き出したり、答えを求めたりする日常的な話し合い活動の工夫改善が求められている。

成果

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



全道・全国と比較して、数字としては大きな差はないが、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」が、全道・全国を上回っていることは、いじめアンケートの継続した取り組みや異学年交流、あいさつ運動などの積極的な取り組みの大きな成果と言える。また、「当てはまらない」と回答した児童が0であったことも成果となる。最終目標は「当てはまる」が100%としながら、今後もよりよい取り組みや指導を継続していきたい。

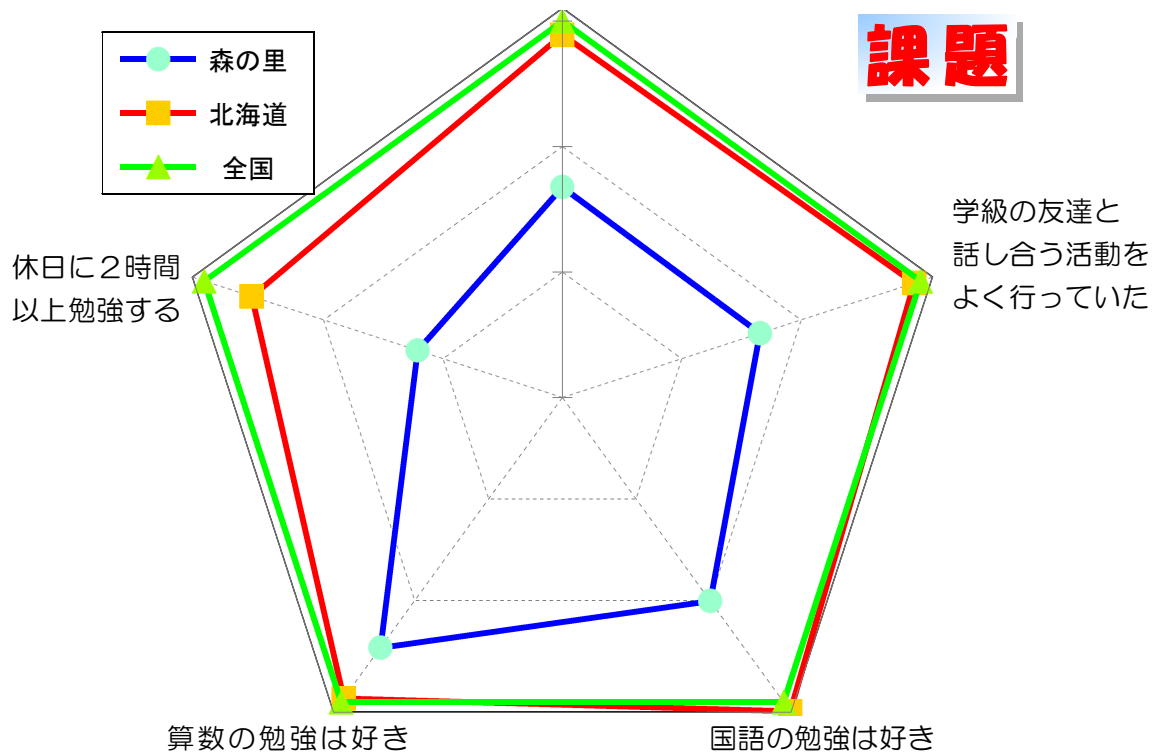


成果

「毎日同じ時刻に寝る」と「算数の授業で、問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている」は全道・全国を大きく上回った。

国語の学習の大切さや、将来に向けた国語の重要性を子どもたちが認識していることがうかがえる。算数においても、新しい問題に対する意欲をもつことができていることから、これらの意欲や意識を学力向上に結び付けていくことができるような取り組みの継続や授業改善を全校・全学級が一体となって進めていく必要がある。

自分達で立てた課題に対して、
自ら考え、自ら取り組んでいた



課題

課題

休日の学習習慣定着と学習時間確保が大きな課題となっている。家庭との連携を図りながら、休日も学習に取り組むことができるよう学校からも働きかけていく必要がある。

国語と算数が「好き」という割合が全道・全国を下回っている。改めて「分かる喜び」や「できる楽しさ」を感じることができる授業づくりに励む必要がある。

課題に対する積極的な働きかけや取り組み意欲が少ない傾向もうかがえる。自ら課題を立て、それに向かう経験を多くもたせるために、全体課題だけでなく、個人課題も意識した学習活動や特別活動における取り組みを継続的に行っていく必要がある。

また、仲の良い友だちとの間でも話し合いを行って取り組みを進めたり、物事を決めるといった過程も重視していく必要がある。

